

目次

はじめに	3
第一章 福祉用具の事故について	13
1 ベッド柵の事故が起きている	13
2 重大事故に多いベッド柵と電動車いす	18
3 車いすや移動時の転倒	20
4 電動車いすは交通事故が多い	23
5 事故で多いのは自室での転倒	25
6 要因は、うっかりミスなどのヒューマンエラー	27
7 福祉用具によって利用者像は異なる	29
8 介護保険制度での利用の仕組み	30
第二章 認知症の人の事故ということ	35
1 認知症にこだわる理由	35

2 認知症の福祉用具事故に多いベッド・付属品 37

3 ベッド柵を乗り越えて転落 42

4 異なる対応 44

5 福祉用具利用での問題 48

第三章 危うい介護現場 53

1 困惑する介護現場 53

2 家族の介護負担と身体拘束の依頼 54

(1) 家族からの依頼（ベッド柵） 57

(2) 家族からの依頼（車いすベルト） 59

(3) 家族からの依頼（その他） 59

3 福祉用具による拘束依頼に 60

4 介護の負担 63

5 悪循環 67

第四章 事故を起こす構造 69

1 福祉用具事業者内の取り組みの遅れ 70

2 操作に不慣れな利用者の問題 72

3 利用者情報（アセスメント）不足のままの選定 75

4	介助、介護するスタッフが福祉用具の取り扱いを知らない	78
5	製品開発側の問題	79
	(1) 情報提供と取扱説明書	79
	(2) 認知症への対応	82
6	P D C A サイクルが回りにくい制度の問題	86
7	事故情報が一元管理できない国の問題	88
8	認知症高齢者の利用に対して	90
第五章 事故防止に向けて 93		
1	アセスメント	93
	(1) ハンドル型電動車いす利用時のアセスメント	94
	(2) 転倒のアセスメント	94
2	福祉用具個別援助計画書の作成	95
	(1) 個別援助計画	95
	(2) 安全ツールとしての個別援助計画書の項目	100
3	モニタリングとメンテナンス	103
4	製品開発の役割	106
	(1) J I S 規格	106

	(2) 利用者にわかりやすい用語	107	
5	安全確認トレーニング	109	
	(1) 安全確認トレーニングとは	109	
	(2) 安全確認トレーニングの方法	110	
6	事故情報の収集と公表の一元化	113	
7	利用者・家族を孤立させない	114	
8	もつと福祉用具に目を向けて	115	
	わが国の認知症対策について——『福祉用具の危機』の刊行に寄せて		中村秀一……………119
1	はじめに	119	
2	わが国における認知症対策の歩み	119	
3	「2015年の高齢者介護」について	123	
4	認知症ケアの課題	126	
5	福祉用具について	127	
6	おわりに——あるスウェーデンセミナーに出席して	129	
	あとがき……………		131

参考資料

.....

133

インターネットの紹介

133

参考図書（五十音順）

134

福祉用具専門相談員による認知症高齢者の事故・ひやりはつとの状況記述

139

● ベッド

139

● 柵

140

● 介助バー

143

● 車いす

144

● 歩行器

144